

第8号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 白山 尚
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

1年単位の变形労働時間制 教委へ意向調査

道教委は9月9日、「1年単位の变形労働時間制」導入を可能とする条例制定にあたって、その参考とするための意向調査を、道立学校と市町村教委あてに通知しました。しかし、現場の意見を必ずしも聞き取るようになっていません。国の方針に照らしても問題で、十分に声を反映させることが緊要です。



学校への变形労働時間制導入を伝えるTV報道=2019年9月

意向調査は、現時点で1年単位の变形労働時間制の導入について各学校の考えを問うものですが、「教育委員会の意向を確認したいの」として、現場教職員の意向を確かめるものとはなっていません。「所管の学校の意見も伺いながら」との記述はありますが、あくまで教育委員会の意向調査です。

萩生田文科大臣は国会で「学校のみんなが嫌だ」というものを条例ができたからといって動かすことはできない」と答弁しています。文科省作成の「手引」には、「条例等の整備」について、「①まず、各学校で検討の上、②市町村教育委員会と相談し、③市町村教育委員会の意向を踏まえた都道府県教育委員会において、省令や指針等を踏まえて条例等を整備すること」と手続きの順序を明確に示しています。しかし、通知には、「各学校での検討」という手続きがすっぽり抜け落ちていきます。回答日は9月24日までとなっており、学校でいねいに説明や議論が行われる時間も十分ではありません。

現場の声をちゃんと聞かなくて

2020檜山合同教育研究地域集会

管内的な集會に代えて、各町・方面で地域教育研究会が4会場で開催されました。概要を紹介します。



上ノ国教研=9月4日

皮切りは9月4日の上ノ国集会。8名が参加し8本のレポートが報告されました。実物との対面指導や、五感の駆使と実感育む工夫、地域と感染症の教材化、個に応じた関わりなど、日頃の実践や取り組みが具体的に交流されました。

翌9月5日のせたな町・今金合同集會には10名の参加、4本のレポート報告がありました。自然との触れあいを通じた「楽しさ」の追求、複式学級の指導の苦労と工夫、部活指導の在り方、保護者との向き合い方などテーマも多岐に渡りました。



厚沢部・乙部合同教研=9月8日

9月8日は厚沢部・乙部合同集會。12名の参加のもと4本のレポート報告を中心に交流しました。特別支援教育をめぐる合同学習の意義や教科学習の課題が示され自己肯定感を育むことの大切さと難しさが語られました。

乙部合同集會。12名の参加のもと4本のレポート報告を中心に交流しました。特別支援教育をめぐる合同学習の意義や教科学習の課題が示され自己肯定感を育むことの大切さと難しさが語られました。

長い子への関わりと課題の克服。感染対策の制約下における音楽活動の苦悩と工夫がリアルに報告されました。指導要領との関連で読解や量をめぐる指導課題も交流されました。これまでの4会場に40名が参加し報告レポートは21本が採られています。



江差教研=9月10日

コロナ禍の現状と実践を交流

「繁忙期」の勤務時間を延長するものです。そもそも制度は重大な労働条件の変更にあたるため、民間では範囲や対象、労働日や労働時間などについて、職場の半数を越える労働組合または労働者の代表と「労使協定」を締結することが必須です(労働基準法第34条)。

議論が差し迫って大事です。道教委と高教組は9月14日、手続きをきちんと踏むことや組合との協議に誠意をもって臨むことを強く申し入れました。

「変形」よりも「せんせんにせんと」

「1年単位の变形労働時間制」検討も始まっています。は勤務実態の改善にならないばかりか、実態を歪めてしまう深刻な問題をはらみます。少人数学級と定数改善による教職員増が、教育と働き方の課題を解決する確かな道です。

緊急アンケートへ

現場の声がきちんと反映されるよう緊急アンケートを実施しております。職場には書面で届けていますが、以下のQRコードからも回答できます。道教委との交渉や記者発表に生かしていきます。

〆切10月2日

2020檜山合同教育研究(オンライン)集会

これまでの実践を振り返って



石橋英敏さん報告要旨

前号の続きです。「檜山での積み重ねが大きい」と語る石橋さんは、「主権者を育む実践視点を掘り下げてきた」と振り返ります。

実践3 兵農分離と検地・刀狩

三町研で公開した「太閤検地と刀狩」の授業を紹介したい。本時の課題は、「太閤検地は何のためにおこなわれたのか」。

れるし、武器を取られ一揆も起こせない」など。百姓の立場から考えているのは、正長の土一揆などそれまでの学習経験があったからだと思

以上いくつかの実践を紹介したが、子どもたちに考えさせる授業には、現実の歴史や人間との対面は必須と思う。歴教協の研究会在が今金で開催された時、瀬棚線敷設や男爵いもに関わる歴史や人々を教材化する試みが行われた。その大きな構想と実践にたくさん学ばせられた。

そこにいて共に学び考えるということ

招き、同じ地域に暮らす者どうしとして在校生とデスカッションするとりくみも構想した。

文献や視聴覚資料も大事だが、実際に見て、人に会って話を聞くということを通じた教材化はとても意味ある大事なことだと思

おもしろいことだ。

32年間檜山で曲がりなりにも教師をやったのは、多くの仲間や先輩諸氏の支えがあったから。同時に、檜山で大切にされてきた学校づくりや実践の積み重ねによるところ

財産をどのように継承し発展させるか、自分も含め考えていかなければならない。檜山では、その「地域」の中にある民衆の生活、自然や労働、産業に視点を当て、題材にして「ホンモノ」との出会いを求める実践が多く

地方と住民を大切にしな政治のもと、基幹産業の衰退がいつそう過疎化に拍車をかけ、農業を続けることが極めて困難になっている。学校の統廃合や複式化・学級減も進行している。学校の存立基盤

野球をやりたいとて高校名門校への進学を決め、そこでの監督の先生との出会いや、101人もの部員がいる野球部でのエピソードが強く心に迫った。高校時代のそれらのエピソードが、後に檜山で教職に就かれたときに、子どもや地域を大事にする実践につながっていったのだなあと

育を困難にしている。そうした現実にあつて、教育の役割は大きい。総合学習に関わり、「教師として知っていることを知らないであろう生徒に教えるということではない。子どもが学ぶことを援助したり、アドバイスしたり、学び方を教え、ともに学ぶこと

また、次のような知見もある。「地域との関わりの中で、地域との人との接点を重視した展開をすすめ、子ども自らが、地域を知り、地域との関わりの中で

野球をやりたいとて高校名門校への進学を決め、そこでの監督の先生との出会いや、101人もの部員がいる野球部でのエピソードが強く心に迫った。高校時代のそれらのエピソードが、後に檜山で教職に就かれたときに、子どもや地域を大事にする実践につながっていったのだなあと



実践報告を聴いて

報告を聴いた参加者の方々に十河久美子さんの感想の概要を紹介します。



十河久美子さん(南が丘小学校)

出会いが檜山で生かされ感謝

野球をやりたいとて高校名門校への進学を決め、そこでの監督の先生との出会いや、101人もの部員がいる野球部でのエピソードが強く心に迫った。

私は、檜山生まれで檜山育ち。学生時代の3年間を除けばずっと檜山。地元出身の子どもたち

野球をやりたいとて高校名門校への進学を決め、そこでの監督の先生との出会いや、101人もの部員がいる野球部でのエピソードが強く心に迫った。

2020合同教育研究全道集会

オンライン開催

11月7日(土)・8日(日) 参加無料

全体講演 鈴木 大裕 さん 教育研究者・土佐町議会議員 千葉市公立中学校で英語教師。



事前申込必要

お申し込みはこちらのフォームから

お問合せ 011-231-0816

http://goken-hokkaido.jp/wp/

育つていくという育ちの姿を、子ども自らが実践する取り組みの重要性が浮かび上がる。分かれ目は、地域の中で子ども

(終わり)